

「氷見の漁業伝統」～三柱社、えびす堂、網元家屋、定置網～ 富山県氷見市

氷見浦から灘浦の海岸部には、えびす神を祀る魚取社やえびす堂が点在している。元来は、漁業を生業とする人々の大漁と海上安全の守り神であったが、後に商家や農家にも受け入れられ、商いや農業の守り神である「えびす大黒」と並称されて都市や農村部にも浸透したとされている。氷見地域では文化・文政期頃(1800年代前半)に勧請されたようである。

恵比寿講と魚取祭は、6月に行われる漁師の大切な祭りであり、神前に当日の鮮魚が供えられる。そして、祭典の祝詞の中で定置網や漁業者の名前が読み上げられ、各々の大漁と無事安全が祈願される。

「2月11日、月おくれの正月で、起舟は舟霊様を祝う行事である。昔は年暮れから浜へ舟を引き上げ、漁労を休んでいたのをこの日に舟越しをした。この日は早朝から舟を掃き、お神酒とお鏡を供えて初漁の操業をし、大漁旗を揚げて係留する。



木彫彩色の御神像(小杉地区)



起舟祭で、朱塗り大盃を囲む漁師たち
(藪田地区・昭和30年代頃)

みどころ



- 海鮮館：旧魚市場跡に建設された全国でも珍しい道の駅。館内には、その朝水揚げされたばかりの海の幸の販売をはじめ、氷見名産の塩干物や海産物売る干物コーナーや朝取れたての魚介類を食材にした海鮮レストランもあり、魚の町氷見をまるごと堪能できる。☎ 0766-74-7100
- 氷見海浜植物園：南国ムードあふれる植物園。施設の温室園には、マングローブの再現林をはじめ、ヤシ類やハイビスカスなどを展示している。展示庭園には、日本の海浜植物を4つのエリアに分類。また、テーマ別の7つのゾーンが設けられた海浜散策園では、遊歩道を散策しながら植物観察を楽しむことができる。☎ 0766-91-0100